

第Ⅱ章 中間評価の結果

Ⅱ－１ 目標及び取り組みの達成状況

この計画の基本理念を実現するため、各対象別における目標の達成状況や取り組み状況を評価し、最終年に向けて市が推進すべき取り組みを明らかにするために中間評価を実施しました。

現状では、幼児・児童生徒のむし歯は減少していますが、40歳で喪失歯がない人の割合が減少しており、中学生から青年期・壮年期までの定期歯科健診を受けている人の割合が低い状況にありました。しかし、60歳で24本以上自分の歯を保有している人(6024)は約7割、80歳で20本以上自分の歯を保有している人(8020)は約5割と当初の目標値を達成しております。

1. 各目標値

各目標値については達成度(◎、○、△、▼、－)で評価しました。

達成度		指標数
◎	現状値が目標に達した	5 (20.8%)
○	現状が目標に達していないが改善傾向にある	11 (45.8%)
△	現状が変わらない(達成率±5%以内)	2 (8.3%)
▼	現状が悪化している	2 (8.3%)
－	目標設定時以降、調査等が実施されていない等の理由で現時点では評価できない	4 (16.8%)
合 計		24 (100%)

※計算式：達成率＝(策定時の値－現状値)÷(策定時の値－目標値)×100

2. 各対象別の取り組み

各対象別の取り組みについては達成度(A～D)で評価しました。

達成度		乳幼児期	学齢期	成人期	高齢期	障害者等	指標数
A	十分達成した	1	4	6	5	1	17 (42.5%)
B	ほぼ達成した	4	5	3	3	6	21 (52.5%)
C	改善を要する	0	0	0	0	1	1 (2.5%)
D	未実施	0	0	0	0	1	1 (2.5%)
合 計		5	9	9	8	9	40 (100%)

Ⅱ-2

乳幼児期（0～5歳ごろ）

～健康な歯と口腔を育成し、子どもの健やかな成長を。

めざす姿

むし歯を予防して、健康な歯と口腔を育てよう！

取り組んでいく課題【PLAN（計画）】

- 歯と口腔の健康づくりについて普及啓発します。
- むし歯にかかる人を減らします。
- 歯科健診の利用促進に努めます。
- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

これまでの主な取り組み【DO（実施）】

- 幼児歯科健診においてフッ化物歯面塗布（*1）を実施しました。
- 保育園・幼稚園歯みがき指導を実施しました。
- 各母子保健事業、市ホームページ、広報等でむし歯の予防方法やよくかむことの効果について普及啓発を行いました。
- 関係課・関係団体とともに歯ッピーかみんぐフェア（*4）やよい歯のコンクール（*5）を実施しました。
- 保育園児に歯みがき指導を実施し、保護者向けに乳幼児の歯みがきについての啓発資料を配布しました。
- 園だより、家庭向けに配布する献立表でよくかむことや栄養についての普及啓発を行いました。
- 保育園給食の中で、かみごたえを意識した食材や切り方を工夫しました。

事業の分析【CHECK（評価）】

1. 目標値の現状と新たな目標値

No	項目		策定時の値			現状値	達成度※	新たな目標値
			H15年度	H24年度	H34年度			
新 1	仕上げみがきをする親の割合	1歳 6か月児	—	—	—	72.4%	—	80.0%
2	むし歯のない人の割合	3歳児	72.3%	80.7%	90.0%	86.7%	○	
3	フッ化物配合歯みがき剤(*2)を使う人の割合	3歳児	46.9%	71.6%	90.0%	70.1%	▼	

※達成度 「◎」：現状値が目標に達した 「○」：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

「△」：現状が変わらない（達成率±5%以内） 「▼」：現状が悪化している 「—」：現時点では評価できない

<NO.1 新たな目標項目の理由>

「仕上げみがきをする親の割合」は、健やか親子21(第2次)に合わせて追加し、目標値も国の指標と同様に設定しました。

2. 取り組みへの評価

No	取り組み内容	4か年の評価
1	フッ化物応用(*3)等の効果的なむし歯予防方法の普及啓発を行います。	B
2	よくかむことの重要性について普及啓発を行います。	B
3	歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。	A
4	園児に歯と口腔の健康づくりの普及啓発を行います。	B
5	食育を通して、よくかんで食べる習慣を身につけるための取り組みを推進します。	B

※評価 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する点がある 「D」：未実施

3. 現状と課題

【現状】

- むし歯のない3歳児の割合は、増加しています。
- フッ化物配合歯みがき剤を使用する3歳児の割合が低い状況です。

【課題】

- フッ化物応用等の効果的なむし歯予防方法を啓発する必要があります。
- 乳幼児期から保護者に、よくかむことの重要性を啓発する必要があります。

4. 中間評価

健康な歯と口腔を育成し、子どもの健やかな成長を。	B
--------------------------	---

※達成度 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する
 <評価の理由>

むし歯のない3歳児の割合が増加傾向にあり、一定の成果が認められることから、中間評価としては、「B」ほぼ達成したと判断します。

今後の取り組んでいく課題【ACTION（見直し）】

■ 継続実施 □ 見直しあり ※見直し箇所到下線

◆市が取り組むこと

- 歯と口腔の健康づくりについて普及啓発します。
- むし歯にかかる人を減らします。
- 歯科健診の利用促進に努めます。

◆地域や社会が取り組むこと

- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

健康増進課の取り組み

- フッ化物応用等の効果的なむし歯予防方法の普及啓発を行います。
 （マタニティクラス、もぐもぐ教室、幼児健診、幼児歯科健診、保育園・幼稚園はみがき指導、出前健康講座、広報）
- よくかむことの重要性について普及啓発を行います。
 （マタニティクラス、もぐもぐ教室、幼児健診、幼児歯科健診、保育園・幼稚園はみがき指導、出前健康講座、食生活改善推進員地区活動）
- 歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。
 （歯ッピーかみんぐフェア、よい歯のコンクール、市民公開講座）

市役所関係課の取り組み

【子育て支援課・教育委員会指導課】

- 園児に歯と口腔の健康づくりの普及啓発を行います。
- 食育を通して、よくかんで食べる習慣を身につけるための取り組みを推進します。

Ⅱ-3

学齡期（6～18歳ごろ）

～自ら歯と口腔の健康づくりに取り組めるような能力の育成。

めざす姿

歯と口腔の健康を向上するための習慣を身につけよう！

取り組んでいく課題【PLAN（計画）】

- 歯と口腔の健康づくりについて普及啓発します。
- むし歯や歯周病（*6）にかかる人を減らします。
- よくかんで食べる人を増やします。
- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

これまでの主な取り組み【DO（実施）】

- 広報、学校の保健だより、日常の指導等で歯科疾患の予防方法やよくかむことの効果について普及啓発を行いました。
- 市内小学校の保護者向けに成人歯科健診とよくかむことの効果についての啓発資料を配布しました。
- 学校歯科保健会議等において、関係課・関係団体と連携し、情報共有を行いました。
- 関係課・関係団体とともに歯ッピーかみんぐフェア(*4)を実施しました。
- 学校歯科医による歯科健診や講話、歯科衛生士によるブラッシング指導を小中学校で実施しました。
- 給食後の歯みがきを推進しました。
- 定期歯科健診結果から、歯科医院への相談・治療が必要な生徒及び保護者に対し、定期的に受診勧告を行いました。

事業の分析【CHECK（評価）】

1. 目標値の現状と新たな目標値

No	項目	H15年度	策定時の値	目標値	現状値	達成度※	新たな目標値
			H24年度	H34年度	H29年度		H34年度
1	むし歯のない人の割合 中学1年生	—	64.4%	75.0%	70.1%	○	
2	フッ化物配合歯みがき剤（*2）を使う人の割合 小学生	45.3%	57.3%	90.0%	63.1%	○	
3	歯肉炎（*7）を有する中学生の割合 中学1年生	27.6%	35.5%	20.0%	23.6%	○	
4	相談・治療済証（*8）を提出した人の割合 小中学生	—	新設の指標	70.0%	43.9%	—	
5	よくかんで食べる人の割合 小中高生	—	新設の指標	70.0%	31.3%	—	50.0%
6	給食後に歯みがきを実施している学校の割合 小中学校	—	70.6%	90.0%	85.3%	○	

※達成度 「◎」：現状値が目標に達した 「○」：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

「△」：現状が変わらない（達成率±5%以内） 「▼」：現状が悪化している 「—」：現時点では評価できない

＜NO.5新たな目標値の理由＞

「よくかんで食べる人の割合」は、現状値と目標値に大きな差があるため、50%に設定しました。



2. 取り組みへの評価

No	取り組み内容	4か年の評価
1	フッ化物応用（*3）等の効果的なむし歯予防方法の普及啓発を行います。	B
2	よくかむことや、歯科疾患予防の重要性について普及啓発を行います。	B
3	歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。	A
4	児童・生徒に歯と口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。	A
5	小・中学校において歯科管理健診（*9）を行います。	A
6	給食後に歯をみがくことができる体制をつくります。	B
7	相談・治療済証の提出を促進させるための指導を行います。	B
8	食育を通して、よくかんで食べる習慣を身につけるための取り組みを推進します。	B
9	学校歯科医として、児童・生徒の健全な歯と口腔の健康づくりに取り組みます。	A

※評価 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する点がある 「D」：未実施

3. 現状と課題

【現状】

- むし歯のない人の割合や歯肉炎を有する中学生の割合は改善傾向にあります。
- むし歯予防のためのフッ化物配合歯みがき剤を使用する人の割合は増加傾向にあります。
- よくかんで食べる人の割合が低い状況です。
- 相談・治療済証の提出率が低い状況です。

【課題】

- フッ化物応用等の効果的なむし歯予防方法について啓発する必要があります。
- 乳幼児期から保護者に、よくかむことの重要性を啓発する必要があります。

4. 中間評価

自ら歯と口腔の健康づくりに取り組めるような能力の育成。	B
-----------------------------	---

※達成度 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する
 <評価の理由>

「むし歯のない人の割合」「歯肉炎を有する中学生の割合」等の4指標が改善傾向にあり、一定の成果が認められることから、中間評価としては、「B」ほぼ達成したと判断します。

今後の取り組んでいく課題【ACTION（見直し）】

- 継続実施 □ 見直しあり ※見直し箇所到下線

◆市が取り組むこと

- 歯と口腔の健康づくりについて普及啓発します。
- むし歯や歯周病にかかる人を減らします。
- よくかんで食べる人を増やします。

◆地域や社会が取り組むこと

- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

健康増進課の取り組み

- フッ化物応用等の効果的なむし歯予防方法の普及啓発を行います。
（家庭教育学級における出前健康講座、広報）
- よくかむことや、歯科疾患予防の重要性について普及啓発を行います。
（家庭教育学級における出前健康講座、食生活改善推進員地区活動）
- 歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。
（歯ッピーかみんぐフェア、市民公開講座）

市役所関係課・関係団体の取り組み

【教育委員会指導課】

- 児童・生徒に歯と口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。
- 小・中学校において歯科管理健診を行います。
- 給食後に歯をみがくことができる体制をつくります。
- 相談・治療済証の提出を促進させるための指導を行います。

【教育委員会指導課・子育て支援課】

- 食育を通して、よくかんで食べる習慣を身につけるための取り組みを推進します。

【歯科医師会】

- 学校歯科医として、児童・生徒の健全な歯と口腔の健康づくりに取り組みます。



Ⅱ-4

成人期（19～64歳ごろ）

～歯と口腔の健康から、生活習慣病予防。

めざす姿

歯周病を予防して、定期歯科健診の習慣を身につけよう！

取り組んでいく課題【PLAN（計画）】

- 歯と口腔の健康が生活習慣病と関係していることを普及啓発します。
- むし歯や歯周病（*6）にかかる人を減らします。
- 成人歯科健診の利用促進に努めます。
- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

これまでの主な取り組み【DO（実施）】

- 19歳以上の市民を対象に成人歯科健診を実施しました。
- 平成28年度から、40歳以上の市民を対象に協力歯科医療機関において、口腔がん個別検診を実施しました。
- 特定健診会場において成人歯科健診・口腔がん検診のPRパネルを掲示し、受診勧奨を行いました。
- 出前健康講座、糖尿病予防学習会において歯科健康教育を実施しました。
- 広報、市ホームページ、成人健診で配布している健康手帳、成人歯科健診ご案内チラシ等でよくかむことや歯・口腔と生活習慣病の関係について普及啓発を行いました。
- 千葉県主催のがん予防展や広報、市ホームページ、健康手帳、口腔がん検診ご案内チラシ等で口腔がん（*10）のセルフチェックについて普及啓発を行いました。
- 歯科医師会と連携し、歯ッピーかみんぐフェア（*4）「口腔がん集団検診」、歯科市民公開講座を実施しました。
- マタニティクラスにおいて歯科医師による講義を行いました。

事業の分析【CHECK（評価）】

1. 目標値の現状と新たな目標値

No	項目		策定時の値		目標値 H34年度	現状値 H29年度	達成度	新たな 目標値 H34年度
			H15年度	H24年度				
1	定期歯科健診を受けている人の割合	19～64歳	—	27.4%	60.0%	42.0%	○	
2	歯間部清掃用具（*11）を使用している人の割合	20歳台	—	16.7%	50.0%	20.0%	○	
3		40歳台	—	39.1%	50.0%	41.9%	○	
4		60歳台	—	33.8%	50.0%	46.7%	○	
5	40歳で喪失歯のない人の割合	40歳 (35～44歳)	—	64.7%	75.0%	63.8%	▼	
6	よくかんで食べる人の割合	60歳台	—	81.3% H18年度	90.0%	30.1%	—	
7	口腔がんを認知している人の割合	18歳以上	—	新設の指標	80.0%	59.5%	—	
8	6024達成者の割合 60歳(55～64歳)で24歯以上の自分の歯を有する人	60歳 (55～64歳)	58.7%	53.3%	70.0%	70.1%	◎	80.0%

※達成度 「◎」：現状値が目標に達した 「○」：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

「△」：現状が変わらない（達成率±5%以内） 「▼」：現状が悪化している 「—」：現時点では評価できない

＜NO.6現時点では評価できない理由＞

策定時の値より、現状値が大幅に減少していますが、市民健康意識調査の質問方法が策定時と現状時で比較できる内容ではなかったため、現時点では評価できないと判断しました。

＜NO.8新たな目標値の理由＞

「6024 達成者の割合」は目標値を達成したため、国の指標「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（平成34年度）」を参考に80%に設定しました。

2. 取り組みへの評価

No	取り組み内容	4か年の評価
1	定期的な歯科受診の推進のため、歯科健診を充実させます。	B
2	よくかむことや、歯科疾患予防の重要性の普及啓発を行います。	B
3	歯・口腔と生活習慣病との関係、かむことの効果の普及啓発を行います。	B
4	歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。	A
5	妊娠時からの歯と口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。	A
6	歯科医師会と連携し、健診や啓発などで口腔がんの早期発見に努めます。	A
7	歯科医師会と連携し、口腔がん検診の実施について検討します。	A
8	歯と口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。	A
9	健診や啓発などで口腔がんの早期発見に努めます。	A

※評価 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する点がある 「D」：未実施

3. 現状と課題

【現状】

- 40歳で喪失歯がない人の割合が減少しています。
- 50歳台までの成人歯科健診の受診数が少ない状況です。
- 出前健康講座の実施回数が少ない状況です。
- 6024「60歳(55～64歳)で24歯以上の自分の歯を有する人」の割合は70.1%であり、目標値を達成しました。
- 定期歯科健診を受けている人の割合、歯間部清掃用具を使用している人の割合は改善傾向にあります。

【課題】

- 働き世代へ定期歯科健診の重要性について啓発する必要があります。
- 地域に出向き、歯科健康教育を行うことが必要です。
- よくかむことや、歯・口腔と生活習慣病との関係、歯科疾患予防について啓発する必要があります。

4. 中間評価

歯と口腔の健康から、生活習慣病予防。	B
--------------------	---

※達成度 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する
 <評価の理由>

「6024 達成者の割合」は目標値を達成し、平成 28 年度から口腔がん個別検診(モデル事業)を実施しました。一定の成果が認められることから、中間評価としては、「B」ほぼ達成したと判断します。

今後の取り組んでいく課題【ACTION (見直し)】

■ 継続実施 □ 見直しあり ※見直し箇所の下線

◆市が取り組むこと

- 歯と口腔の健康が生活習慣病と関係していることを普及啓発します。
- むし歯や歯周病にかかる人を減らします。
- 成人歯科健診の利用促進に努めます。

◆地域や社会が取り組むこと

- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

健康増進課の取り組み

- 定期歯科健診の重要性について普及啓発し、対象者へ受診勧奨します。
 (成人歯科健診)
- よくかむことや、歯・口腔と生活習慣病との関係、歯科疾患予防の重要性について普及啓発を行います。
 (もぐもぐ教室、幼児歯科健診、保育園・幼稚園歯みがき指導、出前健康講座、糖尿病予防学習会、健康相談、食生活改善推進員地区活動、特定保健指導時に資料配布、広報)
- 妊娠時からの歯と口腔の健康づくりについて普及啓発を行います。
 (妊娠届出時に資料配布、マタニティクラス)
- 歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。
 (歯ッピーかみんぐフェア、市民公開講座、よい歯のコンクール(*5))
- 歯科医師会と連携し、健診や啓発などで、口腔がん(*10)の早期発見に努めます。
 (口腔がん検診、歯ッピーかみんぐフェア)

市役所関係課・関係団体の取り組み

- 歯と口腔の健康づくりについて、普及啓発を行います。
- 検診や啓発などで、口腔がんの早期発見に努めます。

Ⅱ-5

高齢期（65歳以上）

～歯と口腔の健康から、食べる・話す喜びを。

めざす姿

かむ・飲みこむ機能の低下を防ごう！

取り組んでいく課題【PLAN（計画）】

- 口腔機能（*12）の維持・向上と誤嚥性肺炎（*13）予防の普及啓発を行います。
- 歯の喪失を減らします。
- 介護予防教室の利用促進に努めます。
- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

これまでの主な取り組み【DO（実施）】

- 成人歯科健診を実施しました。
- 千葉県後期高齢者医療広域連合が、平成28年度から後期高齢者医療保険制度の75歳を対象に歯科口腔健康診査を実施しました。
- 出前健康講座において歯科健康教育を実施しました。
- 広報や成人健診で配布している健康手帳、成人歯科健診案内チラシにて、よくかむことの効果や歯・口腔と生活習慣病の関係について普及啓発を行いました。
- 歯科医師会と連携し、歯ッピーかみんぐフェア（*4）、よい歯のコンクール（*5）、歯科市民公開講座を実施しました。
- 介護予防教室（低栄養予防・口腔教室）を実施しました。
- 佐倉歯ッピー体操（お口の体操や唾液腺マッサージ）の普及啓発を行いました。
- 65歳以上を対象とした地域の集会所で出前健康講座を実施しました。
- 広報や民生委員・児童委員定例会において、介護予防教室を周知しました。

事業の分析【CHECK（評価）】

1. 目標値の現状と新たな目標値

No	項目		策定時の値		目標値	現状値	達成度	新たな目標値
			H15年度	H24年度				
1	定期歯科健診を受けている人の割合	65歳以上	—	39.1%	70.0%	49.6%	○	
2	歯間部清掃用具（*11）を使用している人の割合	60歳台	—	33.8%	50.0%	46.7%	○	
3	よくかんで食べる人の割合	60歳台	—	81.3% (H18年度)	90.0%	30.1%	—	
4	8020達成者の割合 80歳（75～84歳）で 20歯以上の自分の歯を 有する人	80歳 (75歳～84歳)	21.1%	34.1%	50.0%	53.3%	◎	60.0%

※達成度 「◎」：現状値が目標に達した 「○」：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

「△」：現状が変わらない（達成率±5%以内） 「▼」：現状が悪化している 「—」：現時点では評価できない

<NO.3現時点では評価できない理由>

策定時の値より、現状値が大幅に減少していますが、市民健康意識調査の質問方法が策定時と現状時で比較できる内容ではなかったため、現時点では評価できないと判断しました。

<NO.4新たな目標値の理由>

「8020 達成者の割合」は目標値を達成したため、国の指標「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（平成34年度）」を参考に60%に設定しました。

2. 取り組みへの評価

No	取り組み内容	4か年の評価
1	定期的な歯科受診の推進のため、歯科健診を充実させます。	B
2	よくかむことや、歯科疾患予防の重要性の普及啓発を行います。	B
3	歯・口腔と生活習慣病との関係、かむことの効果の普及啓発を行います。	B
4	歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。	A
5	高齢期における口腔機能の維持・向上について普及啓発を行います。	A
6	介護予防教室の利用促進に努めます。	A
7	歯と口腔の重要性について普及啓発を行います。	A
8	健診や啓発などで、口腔がんの早期発見に努めます。	A

※評価 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する点がある 「D」：未実施

3. 現状と課題

【現状】

- 8020「80歳(75～84歳)で20歯以上の自分の歯を有する人」の割合は53.3%であり、目標値を達成しました。
- 定期歯科健診を受けている人の割合、歯間部清掃用具を使用している人の割合は改善傾向にあります。

【課題】

- 口腔機能が低下している対象者を把握して、介護予防教室（低栄養予防・口腔教室）を周知する必要があります。
- 参加しやすい介護予防教室にするため、地域単位で啓発する必要があります。

4. 中間評価

歯と口腔の健康から、食べる・話す喜びを。	B
-----------------------------	----------

※達成度 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する

<評価の理由>

「8020達成者の割合」は目標値を達成し、「定期歯科健診を受けている人の割合」「歯間部清掃用具を使用している人の割合」は改善傾向にあります。また、後期高齢者医療保険制度の75歳を対象に歯科口腔健康診査を実施しました。一定の成果が認められることから、中間評価としては、「B」ほぼ達成したと判断します。

今後の取り組んでいく課題【ACTION（見直し）】

- 継続実施 見直しあり ※見直し箇所を下線

◆市が取り組むこと

- 口腔機能の維持・向上と誤嚥性肺炎予防の普及啓発を行います。
- 歯の喪失を減らします。
- 介護予防教室の利用促進に努めます。

◆地域や社会が取り組むこと

- 地域の歯科医療機関とともに、歯と口腔の健康づくりについての知識を広めます。

健康増進課の取り組み

- 定期歯科健診の重要性について普及啓発をし、対象者へ受診勧奨します。
(成人歯科健診)
- **よくかむことや、歯・口腔と生活習慣病との関係、歯科疾患予防の重要性について普及啓発を行います。**
(出前健康講座、糖尿病予防学習会、健康相談、特定健診会場・健康手帳での周知、広報)
- **歯科医師会と連携し、歯と口腔の健康づくりの取り組みを推進します。**
(歯ッピーかみんぐフェア、よい歯のコンクール、市民公開講座)
- **歯科医師会と連携し、健診や啓発などで、口腔がん(*10)の早期発見に努めます。**
(口腔がん検診、歯ッピーかみんぐフェア)

市役所関係課・関係団体の取り組み**【高齢者福祉課】**

- 高齢期における口腔機能の維持・向上の普及啓発を行います。
(介護予防教室「低栄養予防・口腔教室」、佐倉歯ッピー体操「お口の体操や唾液腺マッサージ」の啓発、リーフレット配布)
- **介護予防教室の利用促進に努めます。**
(広報や民生委員・児童委員協議会地区定例会、介護予防出前講座等)

【健康保険課】

- 口腔機能の維持・改善を目的とした後期高齢者歯科口腔健康診査について、千葉県後期高齢者医療広域連合と連携して取り組みます。

【歯科医師会】

- **歯と口腔の重要性について、普及啓発を行います。**
- **健診や啓発などで、口腔がんの早期発見に努めます。**

Ⅱ-6

障害者・介護が必要な高齢者

～歯科検診・治療・口腔ケアが適切に受けられる環境づくり。

めざす姿

定期的に歯科受診できる「かかりつけ歯科医」をつくろう！

取り組んでいく課題【PLAN（計画）】

- 口腔ケアの必要性と誤嚥性肺炎（*13）の予防について普及啓発します。
- むし歯や歯周病（*6）にかかる人を減らします。
- 訪問歯科診療が適切に受けられるように努めます。
- 関係機関と連携した歯科診療・口腔ケアの推進に努めます。

これまでの主な取り組み【DO（実施）】

- 訪問歯科専門委員会において、訪問歯科診療事業の見直しについて協議しました。平成28年度より、歯科医師会と協定を結び、協力医が実施主体となる訪問歯科事業（訪問歯科診療及び口腔衛生指導）を実施しました。
- 医師会・薬剤師会・介護福祉関係施設の約300カ所に訪問歯科事業の案内チラシを配布しました。
- 歯科専門職を含めた保健医療介護従事者へ歯と口腔に関する研修会を実施しました。
- 介護者を対象とした講座を実施しました。
- 千葉県歯科医師会、印旛郡市歯科医師会が開催する「在宅歯科講演会」について、かかりつけ医、ケアマネジャー、施設職員等へ周知しました。
- さくらんぼ園で障害児と保護者に歯科口腔指導、ブラッシング指導を行いました。



事業の分析【CHECK（評価）】

1. 目標値の現状と新たな目標値

No	項目		策定時の値		目標値	現状値	達成度※	新たな目標値
			H15年度	H24年度				
1	佐倉市訪問歯科診療を認知している人の割合	要介護高齢者	—	15.6%	60.0%	15.6%	△	
2	かかりつけ歯科医がある人の割合	障害(児)者	—	新設の指標	60.0%	72.8% (H26年度)	◎	80.0%
3		要介護高齢者	—	新設の指標	60.0%	65.8%	◎	75.0%
4	施設での定期的な歯科検診実施の割合	障害(児)者 入所施設	—	66.7% (H25年度)	90.0%	66.7%	△	
5		介護老人福祉施設・保健施設	—	25.0% (H25年度)	50.0%	66.7%	◎	75.0%

※達成度 「◎」：現状値が目標に達した 「○」：現状値が目標に達していないが改善傾向にある

「△」：現状が変わらない（達成率±5%以内） 「▼」：現状が悪化している 「—」：現時点では評価できない

<NO.2、3、5 新たな目標値の理由>

「かかりつけ歯科医がある人の割合」「施設での定期的な歯科検診実施の割合の介護老人福祉施設・介護老人保健施設」では目標値を達成したため、現状値から10ポイント弱増やし、目標値を設定しました。

2. 取り組みへの評価

No	取り組み内容	4か年の評価
1	訪問歯科診療が適切に受けられるように努めます。	B
2	歯科専門職を含めた保健医療従事者へ専門的口腔ケアに関する人材育成を図ります。	B
3	歯科医師会、関係各課と連携し、適切な歯科口腔保健の取り組みについて検討します。	B
4	要介護高齢者の口腔保健サービスを推進します。	B
5	かかりつけ医、ケアマネジャー、施設職員へ口腔ケアの重要性について普及啓発を行います。	C
6	認知症のかたが歯科受診しやすくなるよう歯科医師会と連携して認知症サポーター養成講座を実施します。	D
7	さくらんぼ園で障害児と保護者に歯科相談、ブラッシング指導を行います。	A
8	歯科受診しやすい環境をつくります。	B
9	利用者に対して、訪問歯科診療と口腔ケアを行います。	B

※評価 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する点がある 「D」：未実施

3. 現状と課題

【現状】

- 誤嚥性肺炎を知っている人の割合は約7割でした。
- 佐倉市訪問歯科事業の利用者が減少しています。
- 佐倉市訪問歯科診療を認知している人の割合は 15.6%と現状と変わりませんが、訪問歯科診療を認知している人の割合は 50.2%でした。
- 障害(児)者入所施設の定期的歯科検診実施の割合が策定時と変わりません。
- 介護者を対象とした学習会を開催しましたが、参加者が少ない状況です。
- 要介護高齢者を対象とした介護保険（口腔）サービスの利用提供が少ない状況です。
- 医療・介護従事者に対して、口腔ケアの重要性について啓発を行う機会が少ない状況です。
- 千葉県が歯科医師認知症対応力向上研修を開催していますが、受講者が少ない状況です。

【課題】

- 要介護高齢者が訪問歯科診療を利用しやすい環境づくりについて、歯科医師会、関係機関と連携する必要があります。
- 歯科検診を実施していない施設に対して、口腔ケアの重要性について啓発する必要があります。
- 介護者を対象とした講座を定期的に行うことができるよう検討する必要があります。
- 医療・介護従事者に対して、高齢者の口腔ケアの重要性について啓発する機会を増やす必要があります。
- 歯科医師が認知症のかたに適切な診療を提供できるよう啓発する必要があります。

4. 中間評価

歯科検診・治療・口腔ケアが適切に受けられる環境づくり。	B
------------------------------------	----------

※達成度 「A」：十分達成した 「B」：ほぼ達成した 「C」：改善を要する

<評価の理由>

「かかりつけ歯科医がある人の割合」「施設での定期的な歯科検診実施の割合の介護老人福祉施設・介護老人保健施設」では目標値を達成し、一定の成果が認められることから、中間評価としては、「B」ほぼ達成したと判断します。

今後の取り組んでいく課題【ACTION（見直し）】

■ 継続実施 □ 見直しあり ※見直し箇所到下線

◆市が取り組むこと

- 口腔ケアの必要性と誤嚥性肺炎の予防について普及啓発します。
- むし歯や歯周病にかかる人を減らします。
- 訪問歯科診療が適切に受けられるように努めます。

◆地域や社会が取り組むこと

- 関係機関と連携した歯科診療・口腔ケアの推進に努めます。

健康増進課の取り組み

- 訪問歯科診療が適切に受けられるように努めます。
(訪問歯科事業、広報や高齢者福祉課・地域包括支援センター、関係機関に周知)
- 歯科専門職を含めた保健医療従事者へ専門的口腔ケアに関する人材育成を図ります。
(研修会)
- 歯科医師会、関係各課と連携し、適切な歯科口腔保健の取り組みについて検討します。
(訪問歯科専門委員会)

市役所関係課・関係団体の取り組み

【高齢者福祉課】

- 介護者を対象に、在宅における口腔ケアの知識について普及啓発を行います。
- 医療・介護従事者に対して、高齢者の口腔ケアの重要性の啓発と訪問歯科診療について周知を行います。
- 歯科医師が認知症のかたに適切な診療を提供できるよう普及啓発を行います。

【障害福祉課】

- さくらんぼ園で障害児と保護者に歯科口腔指導、ブラッシング指導を行います。

【歯科医師会】

- 歯科受診しやすい環境をつくります。

【介護・福祉施設】

- 利用者に対して、訪問歯科診療と口腔ケアを行います。

Ⅱ－７ 指標の見直し

中間評価の結果を踏まえ、すでに目標を達成した5指標・現状値と目標値に大きな差があった1指標について、見直しを行います。

また、「健やか親子21（第2次）」に合わせ、新たに1指標を追加します。その他の指標については、引き続き、最終年度までの目標達成を目指し推進していきます。

1. 目標値を変更する指標

対象別	項目		策定時の値	目標値	現状値	達成度※	新たな目標値
			H24年度	H34年度	H29年度		H34年度
学齢期	よくかんで食べる人の割合	小中高生	新設の指標	70.0%	31.3%	—	50.0%
成人期	6024達成者の割合 60歳で24歯以上の自分の歯を有する人	60歳 (55～64歳)	53.3%	70.0%	70.1%	◎	80.0%
高齢期	8020達成者の割合 80歳で20歯以上の自分の歯を有する人	80歳 (75歳～84歳)	34.1%	50.0%	53.3%	◎	60.0%
障害者・介護が必要な高齢者	かかりつけ歯科医がある人の割合	障害(児)者	新設の指標	60.0%	72.8%	◎	80.0%
		要介護高齢者	新設の指標	60.0%	65.8%	◎	75.0%
	施設での定期的な歯科検診実施の割合	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	25.0%	50.0%	66.7%	◎	75.0%

2. 新たに追加する指標

乳幼児期	仕上げみがきをする親の割合	1歳6か月児	—	—	72.4%	—	80.0%
------	---------------	--------	---	---	-------	---	-------

Ⅱ－８ 歯と口腔の現状と目標（指標一覧表）

NO.	項目		現状値	目標値	データソース	
			H29年度	H34年度		
新1	仕上げみがきをする親の割合	1歳6か月児	72.4%	80.0%	母子保健に関する実施状況等調査(H29年)	
2	むし歯のない人の割合	3歳児	86.7%	90.0%	3歳児健康診査(H29年)	
3		中学1年生	70.1%	75.0%	定期健康診断結果(H29年)	
4	フッ化物配合歯みがき剤を使う人の割合	3歳児	70.1%	90.0%	市民健康意識調査(H29年・幼児小学生)	
5		小学生	63.1%	90.0%		
6	歯肉炎を有する中学生の割合	中学1年生	23.6%	20.0%	定期健康診断結果(H29年)	
7	相談・治癒済証を提出した人の割合	小中学生	43.9%	70.0%	健歯児童生徒及び歯科健診結果(H29年・市教育委員会)	
8	よくかんで食べる人の割合	小中高生	31.3%	50.0%	市民健康意識調査(H29年・幼児小学生中高校生)	
9	給食後に歯みがきを実施している学校の割合	小中学校	85.3%	90.0%	歯科保健に関する調査結果(H29年・県教育委員会)	
10	定期歯科健診を受けている人の割合	20歳以上	42.1%	65.0%	市民健康意識調査(H29年・一般市民)	
11		19～64歳	42.0%	60.0%		
12		65歳以上	49.6%	70.0%		
13	歯間部清掃用具を使用している人の割合	20歳台	20.0%	50.0%		
14		40歳台	41.9%	50.0%		
15		60歳台	46.7%	50.0%		
16	40歳で喪失歯のない人の割合	40歳(35～44歳)	63.8%	75.0%		
17	よくかんで食べる人の割合	60歳台	30.1%	90.0%		
18	口腔がんを認知している人の割合	18歳以上	59.5%	80.0%		市民意識調査(H29年・①福祉健康編)
19	6024達成者の割合	6024:60歳(55～64歳)で24歯以上の自分の歯を有する人	70.1%	80.0%		市民健康意識調査(H29年・一般市民)
20	8020達成者の割合	8020:80歳(75～84歳)で20歯以上の自分の歯を有する人	53.3%	60.0%		
21	佐倉市訪問歯科診療を認知している人の割合	要介護高齢者	15.6%	60.0%	口腔意識調査(H29年・介護認定者)	
22	かかりつけ歯科医がある人の割合	障害(児)者	72.8%	80.0%	第4期障害者計画策定アンケート調査(H26年)	
23		要介護高齢者	65.8%	75.0%	口腔意識調査(H29年・介護認定者)	
24	施設での定期的な歯科検診実施の割合	障害(児)者入所施設	66.7%	90.0%	口腔意識調査(H29年・施設入所者)	
25		介護老人福祉施設 介護老人保健施設	66.7%	75.0%		

Ⅱ－９ 今後推進すべき取り組み

指標の現状値や歯科保健事業の実績から課題を抽出し、今後、推進すべき取り組みを整理しました。ライフステージごとの特性を踏まえつつ、生涯を通じた歯科疾患の予防、口腔機能の維持・向上等を目指し、今後も引き続き、最終年度までの目標達成に向けて、「佐倉市歯科口腔保健基本計画」を推進していきます。

●乳幼児期

むし歯は減少していますが、フッ化物配合歯みがき剤を使用する幼児の割合が低いため、今後もフッ化物応用等の効果的なむし歯予防方法の取り組みを推進していきます。

●学齢期

むし歯のない人や歯肉炎を有する人の割合は改善していますが、よくかんで食べる人の割合が低いことや定期歯科健診後に受診勧告された児童生徒が歯科医院で相談・治療が済んだ時に学校に提出する「相談・治療済証」の提出率が低い状況です。このような状況から歯科医院の受診について勧奨や周知を強化し、今後も引き続き小・中学校の歯科管理健診について取り組んでいきます。

●成人期

6024「60歳（55～64歳）で24歯以上の自分の歯を有する人」の割合は70.1%で目標値を達成していますが、40歳で喪失歯がない人の割合が減少していることや50歳台までの歯科医院受診率が約4割となっています。平成25年度から成人歯科健診の対象をこれまでの30歳以上から19歳以上に拡大し、歯科健診について受診勧奨を行うなかで若年層の啓発に努めてきました。今後も引き続き働き世代へ定期歯科健診の重要性について啓発していきます。

●高齢期

8020「80歳（75～84歳）で20歯以上の自分の歯を有する人」の割合は53.3%で目標値を達成していますが、高齢期は歯の喪失が多くなる年齢であるとともにかむ機能が低下することが考えられます。今後も口腔機能の維持・向上を図るため、定期歯科健診の啓発や介護予防教室の周知を強化していきます。

●障害者・介護が必要な高齢者

かかりつけ歯科医がある人の割合が障害(児)者72.8%、要介護高齢者65.8%で目標値を達成していますが、要介護高齢者を対象とした介護保険（口腔）サービスの利用提供が少ないことや介護者を対象とした口腔ケアに関する学習会の参加者が少ない状況となっています。このような状況から誤嚥性肺炎の予防を重視し、障害者・介護が必要な高齢者の状況に合った適切な対応ができるよう関係機関と連携し、歯科診療・口腔ケアの推進に努めます。